

士気を鼓舞！今この一瞬の生

百歳を超えた親族（妻の叔母）が二人も居て、脚は弱って耳は遠いものの食欲は旺盛で至って元氣、羨ましくも嬉しいものだ。

僕らの朝食後の会話である。

ところで、日本人の寿命は、昔はどのくらいだったのだろうか？と、ネットで調べたところ（参照サイト／お誕生日新聞・社会科の教科書にも掲載）、

・縄文時代	十五歳
・弥生時代	十八歳〜二十八歳
・古墳時代	二十五歳未満
・飛鳥奈良時代	二十歳未満
・平安時代	三十歳〜四十歳
・鎌倉時代	二十四歳
・室町時代	十六歳
・安土桃山時代	三十四、三十五歳
・江戸時代	三十一、七歳
・明治時代	四十四歳（明治二十四〜三十一年の平均）
・大正時代	四十三歳（大正十〜十四年の平均）
・昭和時代	戦時中三十一歳
（戦後は、昭和二二年に五十代、四六年に七十代を超えたという）	
・平成時代	八十三歳

※それにしても、どのようなデータを集めたのだろうか？一部は人骨で推測したそうだが、ほんとかいな？という資料である。

ついでに、

地球上で最も長生きな生物って、どのくらい生きるのだろうか？と調

べてみた。

(参照／科学系ニュースサイト・Live Science)

・第一〇位 ホッキョククジラ…哺乳類で最も長生き

▼二〇〇年以上

・第九位 アラメヌケ …魚類の一種(カリフォルニア沖や

日本近海で生息

▼二〇五年以上

・第八位 ホンカワシンジュガイ…主としてヨーロッパや北米の

河川に生息する貝

▼二八〇年

・第七位 ニシオンデンザメ…北極海や北大西洋の深海に生息す

るサメ

▼二七二〜五一二年

・第六位 チューブワーム …深海の冷たく静かな海底で生息す

る無脊椎動物(死亡率が低い上、捕食者もないため)

▼三〇〇年

・第五位 アイスランドガイ…北大西洋に生息し、一般的な食用

二枚貝

▼五〇七年

・第四位 ツノサンゴ …無脊椎動物、長い時間をかけて骨

格を成長させる

▼四二六五年

・第三位 ガラス海綿類 …原始的な無脊椎動物の一種

▼一万一〇〇〇年

・第二位 ベニクラゲ …一般的なクラゲは、幼生として卵

から生まれてから海底に定着してポリプとなり、やがてメデューサと呼ばれる成体となって泳ぐ。このベニクラゲは、物理的な損傷やエサの不足といった危機的

な事態に陥ると、ポリプに戻る「若返り」ができるという

▼理論上は不老不死

- ・第一位 ヒドラ ……淡水に生息する無脊椎動物で、クラゲと同様に刺胞という毒針のある触手でミジンコなどを食べる

理論上不老不死とされているが、若返りでなく、全身の大部分が幹細胞で構成され、年月を重ねても老化の兆候が見られない

▼理論上は不老不死

※不老不死には、とても関心があるが、ベニクラゲやヒドラは、同じ地球上の生き物とは云っても、何ら参考にならない。なお、この資料も時代が進むにつれ、新しいことが判明するのだろう。

さて、僕は長く生きればいい、とは必ずしも思っていないので、「生きがい」について触れたい。

つい最近までは、日々の暮らしの中で、僕が生きる張り合いを支えるのは、趣味やら余技を以って心ゆくまで楽しんで過ごすこと。行く末は運命に委ねるしかないような気分でも「生きてきた」ところが今、

そうだ、あの心境まで行こう！という気になっている。

それは、(笑ってやってください)

ただ愉しむのではなく、無心に打ち込んでひたすら修験者のように厳しく生き通してみたい・・・などと。

きっかけは、明治四十年初登頂と思われた陸軍測量部の北ア・剣岳にすでに置かれていた錫杖の衝撃、その主が平安時代の修験者と推測されていることを知り、今また、九十歳で富士山登頂を果たした三浦雄一郎さんの姿に修験者を重ね、言いようもなく感銘して。